

障がいへの理解の輪広がれ

―発達障害支援講演会―

翻訳家ニキ・リンコさんの講演会を6月29日、南丹市国際交流会館で行い、保護者や教育、保健関係者などさまざまな分野から、120人あまりの参加がありました。ニキさんは幼いころから周囲との違和感を抱きながら育ち、30代になってアスペルガー症候群と診断されました。言われたことをそのまま受け取ってしまう特徴や、2つのことを同時にする事の難しさなど、ニキさんのさまざまなエピソードを通じて、発達障がいの方に対する「なぜ？」への理解につながりました。



▲分かりやすく楽しい対談形式の講演



▲あるポーズを取らせる設定で知事に指示を与える
桑原さん（右から1人目）

知事と和い和いミーティング

―府民交流会 in 南丹―

「明日の京都」や「明日の南丹」の将来像を山田京都府知事や佐々木南丹市長、栗山亀岡市長、寺尾京丹波町長が熱く語る座談会が京都学園大学「光風館」で7月24日に開催され、およそ350人が参加されました。第2部では、南丹地域で活躍する住民代表4人が日々の活動を実演。子育て支援活動をされている桑原修子さん（八木町）が山田知事を相手に、働きかけで褒めた場合としかった場合の違いを実践され、知事の困惑した表情に会場が沸きました。

みんなで高めよう人権意識

―南丹市人権教育講座―

人権教育講座を3つのテーマで開講しました。7月15日、園部公民館での第1回講座は、京都府家庭支援総合センター副所長の柴田長生さんが児童虐待について講演。「最近の虐待はネグレクト（養育拒否）の事例が増えている。虐待に気付いたら一人で抱え込まず、関係機関に相談し、情報を共有することが大切」と述べられました。また、第2回は障がいのある方の人権について、第3回は同和問題に起因した今日の結婚差別について、多くの方が学びました。



▲「子どもの権利は良好な親子、家族関係を築くことで守られる」と話す柴田さん



▲多数の委員が出席して行われた委員会

1年後やってくる文化祭典

―国民文化祭南丹市実行委員会―

来年京都で開催される国内最大の文化祭典、第26回国民文化祭に向けての南丹市実行委員会を7月30日、市役所で開催。各種団体の代表者など65人の委員が出席し、平成22年度事業計画、予算などが承認されました。今年には国民文化祭プレ大会を10月30日、31日に開催。市内に残る町家をお借りし、一軒ごとに異なるテーマでの工芸作品の展示や食品加工グループによる販売などを予定しています。国民文化祭の成功に向け気運を盛り上げていきましょう。